

「人間万事塞翁が馬」目の前の結果に一喜一憂しない強さを

～失敗は「次」へのパスポート～

皆さん、進級・入学おめでとうございます。新しい教室、新しい教科書、そして新しい仲間。胸を躍らせている人もいれば、少しの不安を感じている人もいるでしょう。今日は皆さんに、中国の古いお話である**「人間万事塞翁が馬（にんげんばんじさいおうがうま）」**という言葉をご紹介します。

昔、中国の国境近くにおじいさんが住んでいました。ある日、彼の大切な馬が逃げてしまいました。近所の人たちが「お気の毒に」と慰めると、おじいさんは「これが幸になるかもしれないよ」と答えました。数ヶ月後、その馬が立派な野馬を連れて帰ってきました。人々が「おめでとう」と言うと、今度は「これが災いになるかもしれない」と言います。その後、息子はその馬から落ちて足を折ってしまいました。人々がまたお見舞いを言うと、おじいさんは「これが幸になるかもしれない」と言いました。その後、戦争が始まりましたが、息子は怪我をしていたおかげで兵役を免れ、命が助かった……というお話です。

中学校生活では、思わぬ「不運」に見舞われることがあります。

- ・一生懸命練習したのに、試合に負けてしまった。
- ・テストで思うような点数が取れなかった。
- ・仲の良かった友達とクラスが離れてしまった。



その瞬間は、世界が終わったかのような悲しみを感じるかもしれませんが、しかし、この故事が教えてくれるのは、**「人生の幸・不幸は、その瞬間だけでは決まらない」**ということです。

負けたからこそ、自分の弱点に気づき、次の大会で大きな成長を遂げるかもしれません。テストが悪かったからこそ、勉強法を見直し、将来の夢に繋がる基礎力を手に入れるかもしれません。

新しい季節、何かに挑戦すれば必ず「壁」に当たります。しかし、その壁を「最悪の出来事」と決めつけないでください。それは、未来の自分を助けるための「伏線」かもしれません。

どんな結果になっても、「さて、ここからどう面白くしてやろうか」と前を向く。そんな「塞翁（さいおう）」のような、しなやかで強い心を持って、この一年をスタートさせていきましょう。